

## 「福島と名古屋をむすぶ子ども会 in 東別院」実行委員会 設立趣意書

三月十一日、東日本大震災という出来事が私たちの生活を露にした。様々な現実が私たちに突きつけられている。震災の直接的被害がなかったといえる尾張地方に暮らす故に考えさせられる問題も多くある。「私たちの営むこの生活とはどういうものなのか」「私たちは今、この時をどう生きるのか」。どうしてみようもない現実、どうしようもなく問いかける。

特に福島第一原発の事故は、周辺地域の暮らしを一変させた。放射線量の値の高い地域に住んでいた人たちは故郷を離れ、子どもたちは安心して屋外で走り回って遊ぶことができない地域もある。

福島県二本松市で幼稚園を運営する真宗大谷派真行寺の佐々木道範さん（仙台教区仏教青年会会長）らは子どもたちを放射能から守る活動として、福島の子どもたちを集め、夏休みに北海道への疎開事業を行った。佐々木さんらはこの活動を拡充させるため「TEAM 二本松」（NPO 法人設立認証申請中）を立ち上げ、現在、他の期間、地域にも福島の子どもたちの受け入れ先を求めている。

この度、「TEAM 二本松」の活動に賛同し、その呼びかけに応じ、名古屋に福島の子どもたちを迎え入れ、放射能を気にせず、ともに屋外で遊び、食事をとり、安心して過ごしてもらえる場をつくることができばと思う。

大震災から六ヶ月。福島の人たちとの交わりを通し、私たちが今のときを生きるということに向き合っていく機縁としていきたい。

これらのことを実現するため、ここに「福島と名古屋をむすぶ子ども会 in 東別院」実行委員会を設立する。

二〇一一年九月十一日

## TEAM 二本松

（NPO 法人設立認証申請中。平成 23 年 11 月末に法人成立予定）

### 【趣旨・経緯】

3月11日の東日本大震災による福島第一原発事故。ここ二本松市は、福島第一原発から50km程の距離であり、避難対象区域にはなっていないが、放射線量の高い、所謂ホットスポットとなった。8月27日現在、気温33度の中、幼稚園生は長袖ウインドブレーカーでフードを被り、マスクをして通園している。屋外活動も未だ禁止である。二本松市から自主避難していった市民は数千人に上っている。

3月14日から一ヶ月半の新潟での避難生活。故郷がなくなる不安を痛感し、故郷を守る決意をした。5月初旬から三ヶ月間の除染作業。地道にやっていけば、放射線量を下げられることを実感した。7月、未だ屋外活動の出来ない子どもたちの健康と育成に、真剣に取り組まなければならないと、痛感した。

この得体の知れない、先の見えない、放射能との闘いに、残りの人生の全てを懸ける。そして、故郷二本松を、将来の二本松を担う子どもたちを守っていく為、ここにNPO法人を設立し、展開していく。

### 【主な事業】

#### ①市民放射能測定室

一般市民（二本松市民優先）から放射能測定の依頼を受け、測定していく。応用光研工業株式会社製のシンチレーション検出器で、ヨウ素131・セシウム134・セシウム137からの微量なγ線を検出し、1000秒の検体で10Bq/kgを保証。政府ではない、民間による測定で、信憑性のあるリアルな数値を公表していく。

#### ②除染活動

震災一ヵ月後から市内の同朋幼稚園を中心に除染作業を進めてきた経験と、放射能の有識者からのアドバイスを基に、一般市民から依頼のあったエリア（子どもの活動エリアを優先）を、除染していく。

#### ③定期的な一時疎開の促進

7月から8月にかけて、約200名（幼稚園児+保護者）の市民を対象に、北海道への一時疎開（約10日間）を3回に別けて実施した。『定期的に』実施することによって、放射線の細胞破壊から幼少の子どもたちを守れる。春休み・夏休み・冬休みの年三回、二本松の子どもたちを線量の少ない地域へ疎開させる。